

副鼻腔炎（ちくのうしょう）

鼻炎を治療しないで放置すると、副鼻腔炎（ちくのうしょう）に悪化することがあります。

副鼻腔炎の症状

鼻汁：うみの様な鼻汁が出る時には、手術が必要なこともあります。今では薬剤の進歩で外来治療が主流になっています。

鼻汁がのどにまわる：成人に多い症状で、治りにくいといわれています。

鼻づまり：最初は左右交互ですが、進行すると両側の鼻がつまる様になります。

頭痛，頭重感、頭がおもくなります。

においの障害：においが分からなくなったり，異常なにおいがする様になります。

副鼻腔炎は慢性気管支炎の原因になるといわれています。

副鼻腔炎は耳鼻科領域の病気としては，中耳炎や、のどの異常の原因になります。

副鼻腔炎の診断

耳鼻科専門医ならば、鼻腔を見ただけで、副鼻腔炎の診断はつきます。

副鼻腔炎の病状の程度をはっきり診断するためには，レントゲン検査，ファイバースコープ等の検査が必要です。

レントゲン検査で，うみがたまっていることが、予想される場合には，治療もかねて、特殊な注射針を刺して，うみをとることもあります。

副鼻腔炎の治療

週2回位通院して，鼻の処置とネブライザー（吸入）を受ける事が重要です。

内服薬：消炎剤、抗生物質（長期使用しても副作用のない）が多く使われます。

膿がたまった時には膿をとる必要があります。

ちくのうしょうの症状が固定してしまうと，手術が必要になります。

副鼻腔炎の治療は長期かかります。ひんばんに通院治療して、なるべく、手術をしないで済む様にする事が重要です。

矢野耳鼻咽喉科 医学博士	藤沢市善行 1-25-11 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会専門医	8 1 矢野 矢野 矢野	3 5 4 1 潮 ゆかり さゆり
-----------------	---------------------------------------------------------------	-----------------------	----------------------------